

記 入 日 2015 年 1 月 10 日

1. 概 要

実践団体名	一般社団法人 PORO		
連絡先	※代表者または担当者の連絡先電話番号		
プランタイトル	障がいを持つ子のための楽しく学ぶ防災教育		
プランの対象者※1	小学生低学年・高学年	対象とする 災害種別※2	地震・津波・災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

- 障がい児の認知特性に配慮した教育方法(視覚支援、見通し表など)を採用している
- 障がい児本人の自助能力の向上を目的としている
- 教育実践を通して「できること」「できないこと」「緊急時の課題」を明らかにすることで、保護者や支援者、先生方の認識を変え、防災対策の改善に活かせる

【プランの概要】

従来の障がい児者の防災では、支援者がいかに障がい児者を支援するかという点に重心が置かれ、当事者の自助能力向上といった観点からの防災教育は十分ではなかった。そのため支援者が災害発生後早期に駆けつけても説得に時間がかかり、避難が遅れるといった事例も実際に発生している。また、従来の当事者への防災教育に関しても、聴覚過敏や視覚優位といった障がい特性に配慮した教育プログラムで実践されることが少なく、「地震で倒壊した家や津波の画像、映像を見せることで悪影響が出る」「非常ベルの音に極度におびえる」「きまりを理解できない」といった弊害が表れることがある。本プランではこのような課題を解決するために、障がい児の特性に配慮した教育プログラムの実践と普及を目指している。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

従来の防災教育、特に避難訓練に参加できなかったお子さんが楽しく学べる環境を提供することで防災に関心を持つようになった。

自閉症や知的障害の場合、保護者や先生方が「どうせ教えても無理」と、能力を過小評価するケースが多くみられるが、聴覚過敏など参加を困難にしている障壁を取り除くことによって、参加が可能になるケースが多々あり、振り返り学習での学習のまとめを見せることで、教育環境を整えればできることはたくさんあると理解してもらえるようになった。

2. プランの年間活動記録 (2014 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月		教育プログラムの準備	
5月		教育プログラムの準備	
6月	支援団体との調整		
7月		8月のイベントの告知	
8月			8月10日防災教室 (NPO ピーす様) 8月23日防災教室 (放課後等デイハ ピスポ様)
9月			9月13日安全教育学会宮城大会にて 実践活動発表 9月20日親子向け防災セミナー (ク レオ北大阪) 9月28日支援者向けワークショップ (NPO えんばわめんと堺様)
10月			10月25日すみよしまつり防犯防災エ リアでワークショップ
11月	世田谷小学校での 実施調整	11月末のイベント告知	11月22日防災教室 (NPO ピーす様) (テレビ取材あり)
12月			12月17日世田谷小学校で防災教室
1月			1月27日愛知県岩倉市校務主任 (学 校安全担当) 研修 (堺市で開催予定)
2月			
3月			教育保健学会名古屋大会で報告予定

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1】※3

タイトル	なつやすみぼうさいきょうしつ じしんについてまなぼう
実施月日（曜日）	2014年8月9日（土）
実施場所	NPO 法人ぴーす（堺市）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：堀清和 所属・役職等：副理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	90分
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	避難の意味、方法を学ばせる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前の打ち合わせ ・パワーポイントでの知識学習 ・頭を守る練習 ・安全な場所に避難する練習 振り返り
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パワーポイント、視覚支援用の指示用紙、ざぶとん 担当者堀の共同研究者である國學院大学の村上佳司教授
参加人数	11名（途中2名の帰宅者あり）
経費の総額・内訳概要	総額 25000 円 告知チラシ印刷製本費 1 万円 事前打ち合わせ交通費一万円 謝金 5 千円
成果と課題	【成果】 保護者から理解できないと言われていたお子さんが積極的に発言することができた、課題を抽出できた 【課題】 パニックを起こしたお子さん同士のトラブルが若干発生した
成果物	告知用チラシ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	障がい児のための防災ワークショップ
実施月日（曜日）	8月23日（土）
実施場所	放課後等デイサービス施設ハピスポ（堺市）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：堀清和 所属・役職等：副理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	90分
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	避難の意味、方法を学ばせる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントでの知識学習 ・頭を守る練習 ・安全な場所に避難する練習
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パワーポイント、プロジェクター、視覚支援用の指示用紙、ざぶとん（頭を守る練習用）
参加人数	児童生徒6名 支援者5名
経費の総額・内訳概要	担当者堀と共同研究者村上教授の大学の研究費から交通費充当
成果と課題	<p>【成果】 施設で普段利用しない非常口の場所を初めて通る体験をした一度も利用してない非常口を災害時は通ってもいいと理解できた</p> <p>【課題】 施設の性質上事前のお子さんのアセスメントが十分できなかった</p>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	日本安全教育学会 発達障害・自閉症の子どもへの防災教育に関する研究
実施月日（曜日）	9月13日（土）
実施場所	東北工業大学
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：村上 佳司（担当者・堀清和との共同発表） 所属・役職等：國學院大学教授
所要時間または「コマ数×単位時間」	10分（演題口頭発表時間）
プログラムのカテゴリ、形式※4	講演会・シンポジウム
活動目的※5	その他（学会報告）
達成目標	実践した防災教育の課題と成果について報告
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	発達障がい児の防災教育の課題と具体的な実践の進め方、その成果について報告
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パワーポイント
参加人数	50名程度
経費の総額・内訳概要	担当者堀と共同研究者村上教授の大学の研究費から交通費充当
成果と課題	【成果】 学会のテーマが学校防災と学校安全であり東北での開催だったので防災関係者からの関心が高かった 【課題】 発表時間が短いため詳細な報告はできなかった
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4】 ※3

タイトル	親子で学ぶ防災力
実施月日（曜日）	2014年9月20日（土）
実施場所	クレオ北大阪（大阪市）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：堀清和 所属・役職等：副理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	120分
プログラムのカテゴリ、形式※4	講演会・シンポジウム
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	災害への備え、対応について親子で学習してもらう
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・災害についての一般的な解説 ・高齢者や幼児、障がい児者に必要な備え ・お子さんとの質疑応答
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>パワーポイント</p> <p>担当者堀の共同研究者である國學院大学の村上佳司教授</p>
参加人数	8名
経費の総額・内訳概要	<p>総額 10000 円</p> <p>事前打ち合わせ交通費一万円</p>
成果と課題	<p>【成果】 高齢者、障がい児者など、緊急時にどのようなことで困るか、どのような備えが必要なのかについて理解してもらえた</p> <p>【課題】 セミナー形式であったため、軽度発達障害のお子さんへのフォローが十分できずに途中で退席してしまった 日程が近隣小学校の運動会と重なったため参加者集めに苦労した</p>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 5】※3

タイトル	障がい児者の安全と支援方法について
実施月日（曜日）	2014年9月28日（日）
実施場所	NPO 法人えんばわめんと堺/ES 事務所（堺市）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：堀清和 所属・役職等：副理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	90分
プログラムのカテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	防災に関する知識を高める
達成目標	障がい児者の防災・事故予防、支援方法についての意見交換
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	安全教育学会で報告した内容を基にして、不断お子さんの支援活動にあたっている支援者の方々と意見交換をした 今後の教育プログラムについての助言を得た
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パワーポイント、プロジェクター
参加人数	7名
経費の総額・内訳概要	担当者堀と共同研究者村上教授の大学の研究費から交通費充当
成果と課題	【成果】 パニックに陥る原因や対処法についての助言を得ることができた 【課題】 90分ほどの意見交換会となったが、貴重な意見を多く得られたためもう少し時間を取ってもよかったか考える
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 6 】※3

タイトル	すみよしまつり 防災防犯エリア
実施月日（曜日）	2014年10月25日（土）
実施場所	住吉区沢之町運動場（大阪市）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：堀清和 所属・役職等：副理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	5時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	防災に関する知識を高める
達成目標	一般の方々にも障がい児者の防災への関心を持ってもらう
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	防災・防犯エリアで担当者堀がこれまでの研究活動で作成した防災ツールを利用して小学生向けのワークショップを実施 一般客には高齢者、障がい児者の災害への備えに関する情報を提供
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	PC、カード
参加人数	来場者2万人 参加者40名程度（ブースでワークを実施したお子さんの数）
経費の総額・内訳概要	総額40000円 資料材料費一万円イベント用パネル 印刷製本費一万円謝金一万円交通費一万円
成果と課題	【成果】 NPO 法人びーす様モリモト医薬様との協力でブースを持つことで様々な方が興味を持ってくれた 【課題】 多くのお子さんが来てくれたがブースのスペースの関係上、一度に2名のお子さんしか参加できなかった
成果物	防災啓発チラシ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 7】 ※3

タイトル	さいがいについてまなぼう
実施月日（曜日）	2014年11月22日（土）
実施場所	NPO 法人ぴーす（堺市）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：堀清和 所属・役職等：副理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	90分
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	「たすけて」を伝えるスキルを身に付ける
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前の打ち合わせ ・パワーポイントでの知識学習 ・「たすけて」を伝える練習 ・安全な場所に避難する練習 振り返り
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パワーポイント、プロジェクター、視覚支援用の指示用紙 ざぶとん（頭を守る練習用） 担当者堀の共同研究者である國學院大学の村上佳司教授
参加人数	6名
経費の総額・内訳概要	総額 5000円 交通費 5000円
成果と課題	【成果】 支援団体の助言を参考に発言のルールを決める、振り返り学習で気づきの共有化を図るなど、プログラムの改善が図れた 【課題】 パワーポイント学習で、視覚的要素が多い画面構成をしていたが、より要素が少なくわかりやすい配慮が必要との指摘があった
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 8】※3

タイトル	さいがいについてまなぼう
実施月日（曜日）	2014年12月17日（水）
実施場所	世田谷小学校なかよし教室（世田谷区）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：村上佳司 所属・役職等：國學院大学教授
所要時間または「コマ数×単位時間」	40分×3グループ
プログラムのカテゴリ、形式※4	出前授業
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	「たすけて」を伝えるスキルを身に付ける
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントでの知識学習 ・「たすけて」を伝える練習 ・安全な場所に避難する練習
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パワーポイント、プロジェクター、視覚支援用の指示用紙 防災カード（村上・堀の共同研究で開発した教材） 学校の避難経路に色紙を貼ってもらい、視覚的な手掛かりとした 担当者堀の共同研究者である國學院大学の村上佳司教授
参加人数	28名
経費の総額・内訳概要	事前打ち合わせ交通費 5000円 当日分担当者堀と共同研究者村上教授の大学の研究費から交通費
成果と課題	<p>【成果】 避難訓練への参加が難しいお子さんも参加する事が出来た</p> <p>【課題】 カード教材を渡すタイミングが早すぎたため、話よりもカードに注意が向いてしまった</p>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>障がい児者の保護者の方々の意見をできるだけ反映させようと、支援団体や保護者の方々から事前に多くの意見、助言を頂いた。 プランの性質上、こちらが用意したものをそのまま提供することはできず、お子さんの障がい特性や性格、発達段階、参加人数を総合的に踏まえて、参加者に適したプログラム（内容、進行方法、時間）に調整する必要がある、この点が難しくもあり、同時に、専門性を発揮する部分でもあった。</p> <p>放課後等デイサービスの実践では、施設の性質上、当日どのようなお子さんが何人来られるか、直前までわからなかったため、結果として事前のアセスメントが不十分になってしまった。この反省を活かして、それ以降の実践では、事前に実施団体や学校との綿密な打ち合わせを行い、内容についてもすりあわせを行った。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>小学校での実践では、避難経路に色紙を貼ることで視覚的な手掛かりを与える工夫を行った。 障がい児を対象にしたイベントということで参加者を集めることに苦勞した。特に、お子さん同士の相性の問題（単に仲が悪いということではなく、そわそわしやすい子と几帳面で小さな事が気になる子の組み合わせなど）もあるため、参加者をただ集めれば良いというわけにもいかず、様々な点で苦勞をした。 参加者が多すぎても、落ち着きがなくなるため、障がいの特性や知的障がいの有無にもよるがなるべく6～8名程度での実践が望ましいことがわかった。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>イベントでは、パニック発生時の対応とプログラム進行を同時に進めないといけないため、実践活動開始当初は対応が難しい場面が多々あった。 その後、専門家や支援団体の方々の助言を参考に、①プログラム進行役、②子ども対応のファシリテーター（子どもに発言を促す、共感する係）③パニック発生時の寄り添い役（逃避行動やパニックを起こした際に寄り添って声掛けする係）の少なくとも3つの役割分担が必要だという結論に至った。</p> <p>教育実践では、プログラムの意図と内容が伝わるように事前に趣旨と内容説明をしておき、「予定表を配布する」「次にやることわかるよう目に付く場所に提示する」「時計は見やすい場所に置く」「話しかけ以外にも絵や文字で視覚支援を行う」など、見通しや理解を促す配慮を行った。</p> <p>また、事前の参加者のアセスメント（障がい特性だけではなく好きなことや落ち着ける行動等を含む）に加えて、当日のお子さんの様子をイベント実施前に保護者からそれとなく聞くことや、初対面のお子さんへのイベント前の声掛け（アイスブレイク）を通して、アセスメントを十分行っていくことが極めて重要であった。</p> <p>プログラム終了後、学んだことをホワイトボードにまとめ、子どもたちの気づきの共有化を図るとともに、ホワイトボードの内容を保護者に見せることで、子どもたちの成長、理解力を保護者の方にもわかってもらうことができ、家庭でも防災について話し合う機会につなげられるよう工夫した。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	八尾市教育委員会 世田谷小学校	情報提供・告知 実践場所の提供
保護者・ PTAの組織	手をつなぐ育成会 NPO 法人ぴーす	NPO 法人ぴーす様や日本 子どもの安全教育総合 研究所様とのつながり で間接的にご協力いた だいている
地域組織		
国・地方公共団体・ 公共施設	クレオ北大阪 大阪市コミュニティ協会住吉区支部協議 会	講演場所の提供 すみよしまつりでの防 犯防災エリアのブース 提供
企業・ 産業関連の組合等	モリモト医薬 Decent Work (ディーセント・ワーク) 社会医療法人医真会グループ:介護老人保 健施設あおぞら	防災イベントで協賛、協 力していただいている 助言や参加者集めでご 協力いただいている
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	NPO 法人ぴーす NPO 法人えんばわめんと堺/ES NPO 法人日本子どもの安全教育総合研究所	場所の提供 告知・参加者の募集 実践方法の助言
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	安全教育学会 教育保健学会 兵庫医科大学、國學院大学 関西福祉科学大学現代ソーシャルワーク 研究会	実践内容の学会発表 研究、助言など



6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと+</p>	<p>発達障がい児の防災教育上の課題が浮き彫りとなった。パニックを起こした時の対処法、事前の準備、振り返りなど、プログラムを進める上でのノウハウを蓄積することができた。</p> <p>学会発表やワークショップを通して保護者や支援者、先生方に意思疎通に困難を抱える子たちの防災教育上の課題と支援方法に関する情報提供を行うことができた。</p> <p>多くの支援者や先生方に実践プランの趣旨に共感していただき、関西だけではなく関東での活動の輪の広がりができた。</p> <p>視覚支援を用いた教育プログラムは、障がい者だけではなく、ひらがなしか読めない外国の方々にも分かりやすいのではないかと声を頂いた。障がい児者という枠組みだけでとらえるのではなく、生活でさまざまな課題を抱える全ての人の防災に広げていくという視点に気づくことができた。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>実践を通して、障がい児者の保護者の方々からは、日々の療育が大変で、防災教育や対策の大切さは理解しているが、とてもそこまで気が回らない、という本音を伺うことがあった。一方、学校現場では、支援学級でも、一般的な防災教育をそのまま行い、結果として、避難訓練等に参加できない子、災害への恐怖のみが印象に残ってしまい、非常ベルが鳴るだけで身動きが取れなくなってしまう子など、様々な弊害が発生している。同様に地域の防災イベントでも、発達障がいへの理解や配慮は乏しい中行われており、結果として「ふざけている子」「イベントの進行を妨害する子」としてとらえられるなど、発達障がいのような障がいがある周囲からわかりにくい子は依然として排除される傾向にある（排除されないにしても、保護者が迷惑をかけまいと参加させないケースが多々ある）。今回のプラン実践では、試行錯誤の中から、発達障がいや知的障がいがあるお子さんに対して一定の成果を上げることができた。しかし、この教育プログラムを広める上で、誰が、どこで、どのように行うのかという点は大きな課題として残るようと思われる。保護者や先生方の意識を変えないことには、単に実践方法を伝えるだけでは、真に子どものためになる防災教育は広まらないのではないかと懸念があり、残された大きな課題と思われる。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当事者（障がい児）の自助能力向上という視点からの防災教育および障がいの種類や程度に応じた支援方法を、継続的な防災イベントの実施等を通して普及・発展させていく。2015年度はより幅広い場で活動を広げていく予定。 2. 地域と連携した活動を展開することで障がい児者の困難や支援について理解を深め、障がいのある人々にも優しい地域づくりを目指す。2015年度は商店街のイベント等と連携した形も予定している。 3. 2014年度の実践について、障がい児者だけではなく、認知症の高齢者や外国の方々にも有用ではないかと指摘があったため、障がい児のための防災という枠組みにとらわれず、他の支援団体と連携しながら、生活に様々な課題を抱える全ての人にやさしい防災を視野に入れて、幅広い取り組みにつなげて行ければと考えている。

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

チャレンジプランで実践・改善した教育プログラムにおける知見、課題、留意点について

1. これまでの研究や今回のチャレンジプランで得た知見

①発達障がい・知的障がい児に見られる防災教育上の課題

避難訓練に参加できない（感覚過敏や先生に叱責されたという恐怖体験から）

危険な状況が把握できない、急な変更に対応できない、きまりが理解できない、言われたことを額面通り受け取ってしまい臨機応変な対応ができない、気持ちを伝えられない、こだわりが強く自分のペースを乱されるとパニックに陥る、勝敗にこだわるため勝ち負けのあるゲーム形式の学習場面で怒り出す

②実践で浮かび上がった従来の一般向けの防災教育を受けたことによる弊害の事例

- ・災害の衝撃的な写真・映像を見たことによる精神的ショック（眠れない、泣いてしまうなど）
身体的影響（腹痛を訴えるなど）
- ・聴覚過敏を理解されずに避難訓練に参加したため
非常ベル、校内アナウンスに極度の恐怖を示す
（非常ベルの絵を見ただけで大の字になって恐怖を訴える子など）
- ・地震が起きたら机の下に隠れましょうと教わったことを文字通り受け取り
地震が起きたら必ず机の下に隠れなければいけないと認識してしまい、
机のない場所で地震が起きた時身動きがとれなくなる
- ・多動傾向があるため普段非常階段に近づかないよう指導されていたため、避難訓練の際に、
非常階段へ近づくことを拒絶する
- ・避難訓練で何をしたいのかわからずぼんやりしているところを先生にふざけていると叱責
されて、その後避難訓練に参加出来なくなった
- ・避難訓練の煙や音で苦しい気持ちを先生に理解してもらえない
- ・話し出すと止まらないため、発言のルールが決められていない状況で他の子が発言すると不
機嫌になる

2. 今回のプランで実践・改善した教育プログラムの実践の流れと留意点

○事前のアセスメント

前日までに参加者の障がい特性、好きなもの、コーピンググッズ（落ち着けるものや落ち着ける行動）、これまで防災教育を受けた時の反応（写真や映像で悪影響が出た、避難訓練でパニックに陥るなど）を聞いておく。

○アセスメントを踏まえた内容の修正

写真で悪影響が出たお子さんがいる場合はイラストを用いる

文字の方がわかりやすい場合は個別に字による支援手段を併用する、など

○当日のアセスメント

保護者の方に当日のお子さんの機嫌や様子を聞いておく。

イベント前にお子さんと一緒に遊ぶ、話すなどして気持ちを和らげる（アイスブレイク）。

同時に、お子さんの様子から、寡黙で声掛けが必要な子、多弁で自分の話題を遮って他の子が話しだすと不機嫌になるなどの特徴をとらえておく。

○イベント当日、直前の最終打ち合わせ

事前情報を基に、イベント開始前に最終打ち合わせ、留意点や必要な配慮などを相談し、必要に応じて、その場でプログラム内容も修正する。

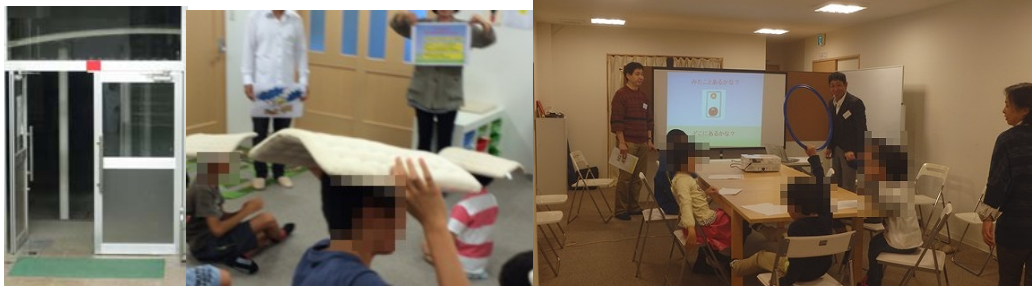
○用意するもの

◆紙などによる視覚支援

- ・見通し表（その日のイベントの流れ、開始時間・休憩時間・終了時間などを書いた紙）
- ・2時になったら休憩です、2時10分になったら隣の部屋に集まりますなど時間に関するもの
- ・頭を守りましょう、にげましょうなど行動に関するもの

◆発言者マーク（発言する子が持つもの、今回の実践では輪っかやうちわを使用）

誰の話の聞けばいいか視覚的にわかりやすくなり、集中して聞くことができるようになる



避難経路に色紙を貼る 行動内容を言葉だけでなく紙でも指示 発言の際は発言者マークを持って発言させる

◆パワーポイント原稿

基本的に一画面一要素（絵なら一つの絵だけを表示）で視覚的に混乱しないようにする

○役割分担

- ①プログラム進行役、②子ども対応のファシリテーター（子どもに発言を促す、共感する係）
- ③パニック発生時の寄り添い役（逃避行動やパニックを起こした際に声かけをする）

○イベント開始時：事前の説明、趣旨や開始・終了時刻、発言のきまりの説明をする

- ・今からじしんについてのお話をします
- ・2時になるまで席に座ってお話を聞きます
- ・何かお話ししたい時はうちわを持って話します
- ・他の人がうちわをもって話しているときは注目してお話を聞きます
- ・つらくなったときは休憩場所に行ってもいいです、など

○パニックを起こした時の対処

寄り添い役が声掛けをし、必要に応じてコーピンググッズを与える（お絵かきが好きな子には紙とペンやぬりえをわたすなど）、その場での参加が難しい場合は、落ち着ける場所に誘導し、そこで寄り添い役の支援者と共にお話しをする。



(自由記述: 2/3)

3. イベントでの実践内容

今回のチャレンジプランの教育プログラムでは①地震・津波を中心として災害時の避難の意義、方法、②頭を守るなど身を守る方法、③「たすけて」を伝える方法を学習してもらった。教育内容については、参加したお子さんの障がい特性や能力、保護者や施設側の要望、施設・学校の立地条件を踏まえて優先度の高い内容を、担当者堀清和が研究者として学校安全の分野で発表している安全教育の理論（日本教育保健学会年報第 20 号 pp. 77-87「潜在危険論に基づく防災教育方法」2013 年 3 月）に基づいて構築したものである（例えば、放課後等デイサービスでの実践では施設のすぐ近くに川があるため、大雨で川が氾濫した状況を想定した内容を盛り込んだ）。したがって、他の施設や学校で実践する際には、参加者の特性や保護者・施設の要望、地域特性によって、適宜ふさわしい内容と方法に調整することが望ましいが、参考までに 11 月 22 日に NPO 法人ぴーす（障がい者支援施設）で実施した内容の概略を紹介したい。

○パワーポイントによる知識学習（知識）

非常口のマーク、助けを求めるさまざまな方法（ショックで声が出なくなったときを想定して）について、パワーポイントの画像を見ながら質疑応答を交えた学習を行う。

○「たすけて」を伝える練習、非常口へ移動する練習（行動）

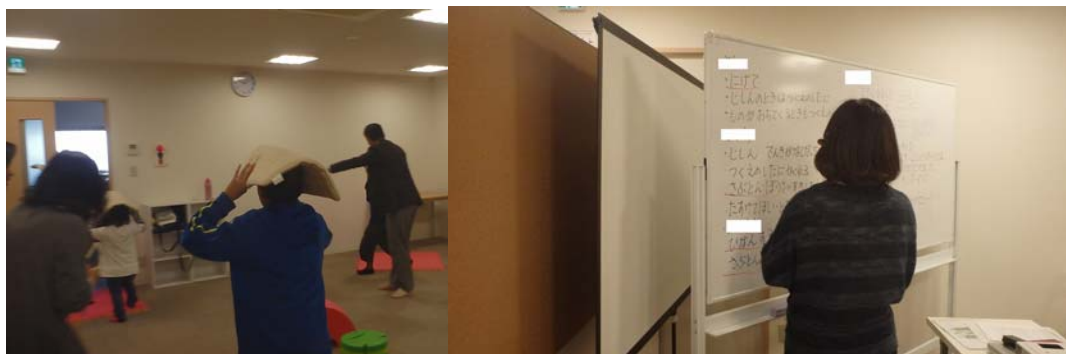
休憩をはさみ、座学で学んだ知識を基に行動を身に付ける学習。

地震発生を想定して、閉じ込められたときにものを叩いて音を出す練習、声を使わずに居場所を伝える練習、手を振って大人に助けを求める練習、非常口を目指して移動する練習を行った。

○振り返り学習（気づき）

子どもたちがイベントを通して気づいたこと、印象に残ったことを挙げてもらいホワイトボードにまとめ、気づきの共有化を図った。

複数の児童が挙げた共通のキーワードには下線を引き、重要なキーワード、行動について理解を深めると同時に、イベント終了後、保護者にホワイトボードの内容を見てもらい、学習効果を実感してもらった。



◆その他、実践上留意が必要であった点

イラストの描かれたカードやボール（頭を守る練習で使用）等をプログラム前半に見せると、興味を持ちすぎて話に集中できなくなるので、使用する時だけ見せる、使用はプログラムの後半に持っていくなどの工夫が必要だった。

(自由記述: 3/3)